



プラチナ
構想ネットワーク

第1回 プラチナ大賞

報告書

2013年12月
プラチナ大賞運営委員会

プラチナ大賞とは

「プラチナ大賞」創設の目的

未来のあるべき社会像として描く「プラチナ社会」は、成熟社会における成長の一つのモデルであり、日本が先進国として直面する課題の解決と、新たな可能性の創造によってもたらされる、豊かで快適でプラチナのように威厳をもって光り輝く社会です。

「プラチナ大賞」は、この「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的に創設されました。

イノベーションによる新産業の創出や、アイデア溢れる方策によって地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、または実現しようとしている全国各地の取り組みを「賞」というかたちで称え、広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図っていきます。

「プラチナ社会」の意味

人口減少、急激に高齢化する社会、地球温暖化等、課題先進国である我々日本がおかれている現状において、老朽化していく都市インフラ、活力を失う地方の市街地、荒廃する農地、財政を圧迫する社会保障全般、人材養成の困難とその海外流出、新たな負担となった地球環境への対応等、様々な課題が生じています。

これらの課題は物質的な豊かさを達成した先進国ならではのものであり、これらを我が国が「課題解決先進国」としていち早く乗り越えることは、一方で新たな社会システムの構築、新しいビジネスの創造に繋がる、大いなる可能性に満ちた挑戦であるとも言えます。

私たちは「課題解決先進国」として日本が目指すべき社会を「プラチナ社会」と定義し、その必要条件は以下の通りであると考えます。

- ・ **エコロジー**で（人間にとって快適な自然環境の再構築、環境との調和・共存）
- ・ **資源の心配がなく**（エネルギー効率の向上、自然エネルギー活用、物質循環システムの構築）
- ・ **老若男女が全員参加**し（生涯を通じた成長、社会参加の機会創造、健康で安心して加齢できる社会）
- ・ **心もモノも豊かで**（文化・芸術に彩られた暮らし、飽和・停滞を打破する「限界を超えた成長」）
- ・ **雇用がある社会**（イノベーションによる新産業の創出）

「プラチナ社会」の姿は、このような条件を備えたうえで地域ごとの个性的様相を帯びるものであり、その実現のためには各地域独自の自立的かつチャレンジングな取り組みが重要となります。

第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

日 時 2013年7月25日（木）13:00～17:00
会 場 都市センターホテル コスモスホール（東京都千代田区平河町 2-4-1）
主 催 プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）
[第1回プラチナ大賞主催 プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田寛也）]
後 援 総務省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会

第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 フォトレポート

会場 都市センターホテル コスモスホール

会場の様子



司会



岡 知沙登さん

開会挨拶



小宮山 宏 会長

運営委員長挨拶



増田 寛也 運営委員長

審査委員長挨拶



吉川 弘之 審査委員長

来賓挨拶



総務大臣 衆議院議員
新藤 義孝氏 (ビデオメッセージ)



公明党 幹事長代行 衆議院議員
斉藤 鉄夫氏



民主党 最高顧問 前内閣総理大臣
衆議院議員 野田 佳彦氏

最終審査発表会



香川県
浜田 恵造 知事



雲南市
速水 雄一 市長



上勝町
花本 靖 町長



株式会社LIXIL総合研究所
村井 達典氏



柏市
秋山 浩保 市長



海士町 山内 道雄 町長



東松島市
阿部 秀保 市長



東松島市建設業協会
橋本 孝一 会長



富山市
森 雅志 市長



徳島県
飯泉 嘉門 知事



最上町
高橋 重美 町長

審査の様子



基調講演

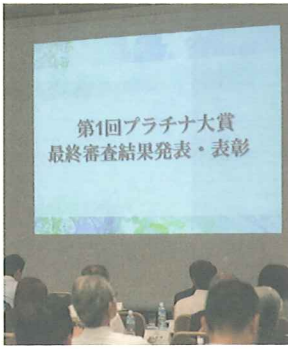


俯瞰工学研究所 代表 松島 克守氏

小宮山会長と松島氏によるトークセッション



表彰



プラチナ大賞・総務大臣賞（海士町）

講評



吉川 弘之 審査委員長

閉会挨拶



渡 文明 幹事長



懇親会



はじめに

日本社会が解決すべき課題は、環境問題、高齢化、活力ある地域づくりなど様々です。そして日本は世界の中で、これらの課題をいち早く経験する「課題先進国」です。我々は、これを日本が再生・成長するためのチャンスと捉え、他に先駆けて「課題解決」することで、新たな需要、新たな経済活動を創造していくことが可能になると考えています。

「プラチナ構想ネットワーク」は、そのようなきっかけを創出し、日本中にエコで健康で快適な街、すなわち成熟社会における成長の一つのモデルである「プラチナ社会」を作っていく核となるべく、2010年8月に設立されました。

そして2012年、プラチナ構想ネットワークの新たな事業としてプラチナ社会のモデルとなる全国各地の取り組みを称え、広くそのモデルを発信するためにプラチナ大賞が創設されました。

プラチナ構想ネットワークは、このプラチナ大賞の運営を通じて、プラチナ社会実現に向けたビジョンや具体的なアクションの更なる理解・浸透を図っていきます。

記念すべき第1回のプラチナ大賞には、全国の73の会員自治体等から124件の応募が寄せられ、その中から一次審査にて選ばれた9団体が参加して、2013年7月25日に「第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式」を開催いたしました。

総務省・全国知事会・全国市長会・全国町村会・特別区長会からのご支援や、多くの関係団体・関係者・会員の皆様のご協力を賜り、無事に賞の運営、催事の開催を終えることができましたことを、心より感謝申し上げます。また、124件のエントリーをいただいた73の会員自治体等の皆様の熱意とご努力に改めて敬意を表するとともに、厚く御礼を申し上げます。

皆様のご支援・ご尽力に些かでもお応えするべく、第1回プラチナ大賞の経緯や内容を可能な限りお伝えすることを目的に、当報告書を取りまとめました。ご一読いただき、本誌が皆様にとって、第2回プラチナ大賞に向けてご理解を深めていただく一助として役立ちますならば幸いです。

皆様には、今後ともご支援ご鞭撻を賜りますよう何卒お願い申し上げます。

プラチナ大賞運営委員会事務局
(プラチナ構想ネットワーク事務局)

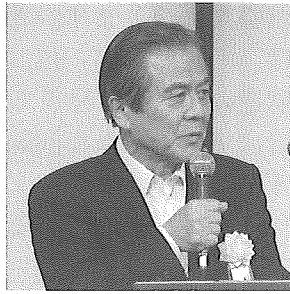
目次

はじめに	1
開会挨拶	
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏	3
運営委員長・審査委員長挨拶	
プラチナ大賞運営委員長 増田 寛也	3
プラチナ大賞審査委員長 吉川 弘之	4
来賓挨拶	
総務大臣 衆議院議員 新藤 義孝氏 (ビデオメッセージ)	5
公明党 幹事長代行 衆議院議員 斉藤 鉄夫氏	5
民主党 最高顧問 前内閣総理大臣 衆議院議員 野田 佳彦氏	6
第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要	
実施体制	7
第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 開催までの経緯	8
第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 プログラム概要	9
応募団体の全体概要	10
最終審査発表会選出団体	11
副賞 (津軽金山焼の特製トロフィー) について	12
表彰について	
受賞団体一覧	13
表彰風景	14
第1回プラチナ大賞を受賞して	15
最終審査発表会選出団体によるプレゼンテーション	
海士町…17 / 上勝町…18 / 富山市…19 / 徳島県…20 / 香川県…21 /	
雲南市…22 / 柏市…23 / 東松島市…24 / 最上町…25	
基調講演・トークセッション	26
[基調講演] 俯瞰工学研究所 代表 松島 克守氏	
[トークセッション] 俯瞰工学研究所 代表 松島 克守氏	
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏	
審査委員長 講評	28
閉会挨拶	
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 渡 文明	29
関係者懇親会	30
【資料編】	
運営委員会組織と事務局運営体制	32
第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 参加者数	32
広報実施概要	33
主なメディアの掲載一覧	37

開会挨拶

プラチナ構想ネットワーク
会長

小宮山 宏



3年前にプラチナ社会という日本のビジョンを設定し、このプラチナ構想ネットワークがスタートいたしました。今回、ようやく念願のプラチナ大賞の開催に漕ぎ着けましたことを、ご協力いただいた皆様と一緒に喜びたいと思います。

このプラチナ構想ネットワークでは実にいろいろな取り組みを行っています。全国レベルのシンポジウムを開催しているほか、プラチナ構想スクールという地方自治体の中堅職員を対象とした教育を行い、これまでに89名の職員が卒業しております。会員である首長・企業トップご本人と直接対話させていただくプラチナ懇談会は40回を数えました。さらに、多くのワー

キンググループ活動を実施しております。

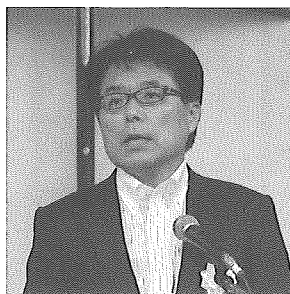
プラチナ大賞という表彰を何のためにやるのかと言いますと、エコロジカルで、資源やエネルギーの心配が無く、老若男女が参加することができて、雇用がある、というプラチナのように光り輝く威厳のある社会をつくっていかう、と考えているからです。経済が明るさを少し取り戻しつつありますが、その肝は何といっても成長戦略です。そして先進国の成長とは、すなわちプラチナ社会へ向かうプロセスです。プラチナ社会というのは、理想、夢のようなものですから、そこへ向かうプロセスが非常に重要なのだらうと思います。

今回は、120件を超えるプログラムの応募をいただきました。その中から今日、ファイナリスト9件が残って、ご発表いただきます。その9件の発表をお聞きいただきながら、課題先進国日本が向かうところに思いを馳せる午後のひと時とさせていただければ大変ありがたいと存じます。

運営委員長挨拶

プラチナ大賞
運営委員長

増田 寛也



今日は大変大勢の皆様、そして何よりも、選抜かれた9地方自治体のトップの皆様においでいただきまして、大変感謝申し上げます。今日の第1回目のプラチナ大賞は、まさにビジョンがあって、それに向かって非常にわかりやすい取り組みをしておられる地方自治体の皆様方の活動を通じて、もっとこれを横展開していき、これを繰り返すことによって、世の中全体が本当のプラチナ社会に少しでも近づ

いていく、そのキックオフの機会だと思っております。

おかげさまで、総務省・全国知事会・市長会・町村会・特別区長会の関係者の皆様にご協力いただきました。100件を超える応募があるということは、実は私の想定よりも超えておりました。小宮山先生をはじめ、大勢の皆様方がやってこられたプラチナ構想スクールや、プラチナ社会を目指した活動の成果だと思っております。これを契機に、また多くの地方自治体の皆様方に声をかけて、第2回目、第3回目とつなげていければと思っております。

ぜひ知事の方々には県下の首長に大いに声をかけていただき、首長の方々には、こうした試みを機会あるごとにPRしていただきたいと思っております。これからの発表に大いに期待したいと思います。

審査委員長挨拶

プラチナ大賞
審査委員長
吉川 弘之



プラチナ構想ネットワークが活動を始められて、大変素晴らしいものが始まったなと思い、応援部隊の一人を自認いたしておりますが、この度審査委員長として仲間入りをさせていただくことになりました。今日はまだ最終審査がございますので、審査前でやや緊張をしておりますが、良い成果が出るものと考えております。

皆様が大変今まで努力されていたことについて、心より敬意を表したいと思えます。現在、世界的には非常に大きな問題がたくさんあります。途上国は途上国なりに困難にぶつかっており、一方、成熟国家といわれる国も大変大きな問題に今ぶつかっています。成熟国家が幸せにやっていくためには、常に変化を遂げ、多様性

が必要になります。ところが、多くの成熟国家は、画一化、均一化、社会制度の硬直化、産業構造の硬直化が起きております。そのような中、目に見えた様々な問題からどのようにして脱するかが問題だと思います。プラチナ構想ネットワークが目指している、人間と自然の新しい関係、エコロジーや資源の問題、あるいは、存在している人間はすべて働く、参加する、という発想は、ターゲットとして素晴らしいものと思っております。

行動する当人が政策を作るという試みを目指していることは、本当に素晴らしいことだと思います。また、多くの応募がそういう立場で新しい世界を模索しているということに、本当に感動させられています。

時代の流れに先行する人々の知恵が新しい方向を、そして隣人との協力によって行動する当人が新しい方向を見つけていくという、セオリーを持っているこのプラチナ大賞は、間違いなくこれから発展すると思えますし、プラチナ構想ネットワークの全体的な推進に対して大きな役割を果たすことを、私としても願っています。

来賓挨拶

総務大臣
衆議院議員

新藤 義孝氏
(ビデオメッセージ)



第1回プラチナ大賞、この発表会、そして授賞式の開催をお慶び申し上げます。

我が国はまさに世界に先駆けて超高齢社会に突入しております。これからのコミュニティのあり方、社会保障制度、そして持続可能な経済成長を達成するために、この高齢化とどのように取り組んでいくか、向き合っていくか、私たちの国家的課題だと思っております。

また、皆様にもまとめていただいた「スマートプラチナ」の考え方は、安倍内閣の成長戦略にも反映させていただいております。IT戦略の中では、「スマートプラチナ社会」をキーワードとして盛り込ませていただいております。世界の中でまさに日本の仕組みを通して、新しい取り

組みを提言しようではないか、ということをやっています。そしてこのスマートプラチナ社会については、いかに実践していくか、そしてスピードの中で成果をあげていくかが重要だと思っています。

私はこの皆様方の取り組みが、この国の社会的、国家的課題の解決に極めて有効な答えを出していただけるのではないかと、大いに期待をしておりますし、そのために、私どもとしてもこの総務大臣賞をお出しさせていただきたいと考えています。

日本はいろいろな難問、課題に直面しているわけですが、皆で知恵を使って、力を合わせてこの国を元気にしていく、日本の素晴らしい社会を取り戻していくために我々も頑張っていきたいと思っておりますし、皆様方にもご一緒していただきたいとお願いする次第です。

どうぞ素晴らしい授賞式となりますように、そしてまた、皆様方のご活躍によって、スマートプラチナ社会の進展が行われますように、大いに期待をいたしまして、お祝いのご挨拶に代えさせていただきます。おめでとうございます。

公明党 幹事長代行
衆議院議員

斉藤 鉄夫氏



小宮山先生には、私が環境大臣の時代やその前後を通して環境政策でご指導いただきました。

私が生まれた島根県は、まさに過疎と高齢化の先進県でございます。今日9つの中に2つの団体が島根県から残っているということで、大変楽しみにしているところでございます。

プラチナ構想ネットワークと方向性は一緒ですが、私たちもいろいろなアイデアを考えております。例えば、いわゆる高齢者のお金を、環境問題の解決や、自分の家への機器の設置を含めた再生可能エネルギーの普及のための資金として孫等に贈与いただければ税を減免する、といった優遇制度なども、これからの高齢社会のデザインと環境政策を結びつける一つのきっかけになるのではないかと考えているところです。

これからもこのようなアイデアを出しながら頑張っていきたいと思っておりますので、どうかご指導よろしくお願ひします。今日はこういう場でご挨拶をさせていただき、大変光栄に存じております。

民主党 最高顧問
前内閣総理大臣
衆議院議員

野田 佳彦氏



第6回目のシンポジウムの開催、誠におめでとうございます。小宮山先生とお話をさせていただきますと、いつも知的な刺激をいただきます。プラチナ構想についても何回かお話をお聞かせいただきました。私はこのプラチナ構想を全面的に支持し、賛同をするものでございます。

私が生まれたのは昭和30年代の初めです。あの頃は今に比べれば貧しい時代でありましたけれども、誰もが今日より明日は良くなるだろうという希望を持って懸命に勉強をし、懸命に働いた時代だと思います。時代は進み、高度成長を遂げた我が国が、今後到来する成熟社会で放つ光とはどういう光なのか。小宮山先生はプ

ラチナという言葉で形容されておりますが、その色をもっと具体的に見たいなと私は思っております。

日本は様々なボトルネックがあります。私の住んでいる船橋は今人口61万人ですが、75歳以上の方が4万人です。10年後には8万人になります。ボトルネックをどうやって乗り越えて、成熟社会におけるプラチナのような威厳を持った光をいかに放つのか、まさに日本は問われている時だと思います。

9つの最終選考に残っている地域の中から、どの団体が大賞に選ばれるか大変楽しみにしています。この具体的な選考を経て、本当にプラチナの色がだんだん具体化していきたくらいということも、併せて楽しみにしております。選考される先生方は大変だと思いますし、プレゼンをされる方は大変緊張されていると思います。しかし、競い合いの中で皆様にとって今日は参加して良かったと思える日になることを、心からご祈念を申し上げまして、簡単でございますけれども、ご挨拶に代えたいと思います。

| 第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要

実施体制

- [主催] プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）
[第1回プラチナ大賞主催 プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）]
- [後援] 総務省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会
- [事務局] プラチナ大賞運営委員会事務局（プラチナ構想ネットワーク事務局）

運営委員会

委員長	増田 寛也	株式会社野村総合研究所 顧問、元総務大臣、前岩手県知事
副委員長	長島 忠男	プラチナ構想ネットワーク 顧問
委員	秋山 弘子	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授
委員	柚原 義久	プラチナ構想ネットワーク アクティブアドバイザー

審査委員会

委員長	吉川 弘之	元東京大学 総長、東京大学 名誉教授、産業技術総合研究所 最高顧問、 日本学術振興会 学術最高顧問
副委員長	吉川 洋	東京大学大学院経済学研究科 教授
委員	秋山 弘子	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授
委員	西條 都夫	株式会社日本経済新聞社 編集委員兼論説委員
委員	増田 寛也	株式会社野村総合研究所 顧問、元総務大臣、前岩手県知事
委員	松永 真理	松永真理事務所 代表、テルモ株式会社 社外取締役
委員	箕輪 幸人	株式会社フジテレビジョン 取締役・報道局長

第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 開催までの経緯

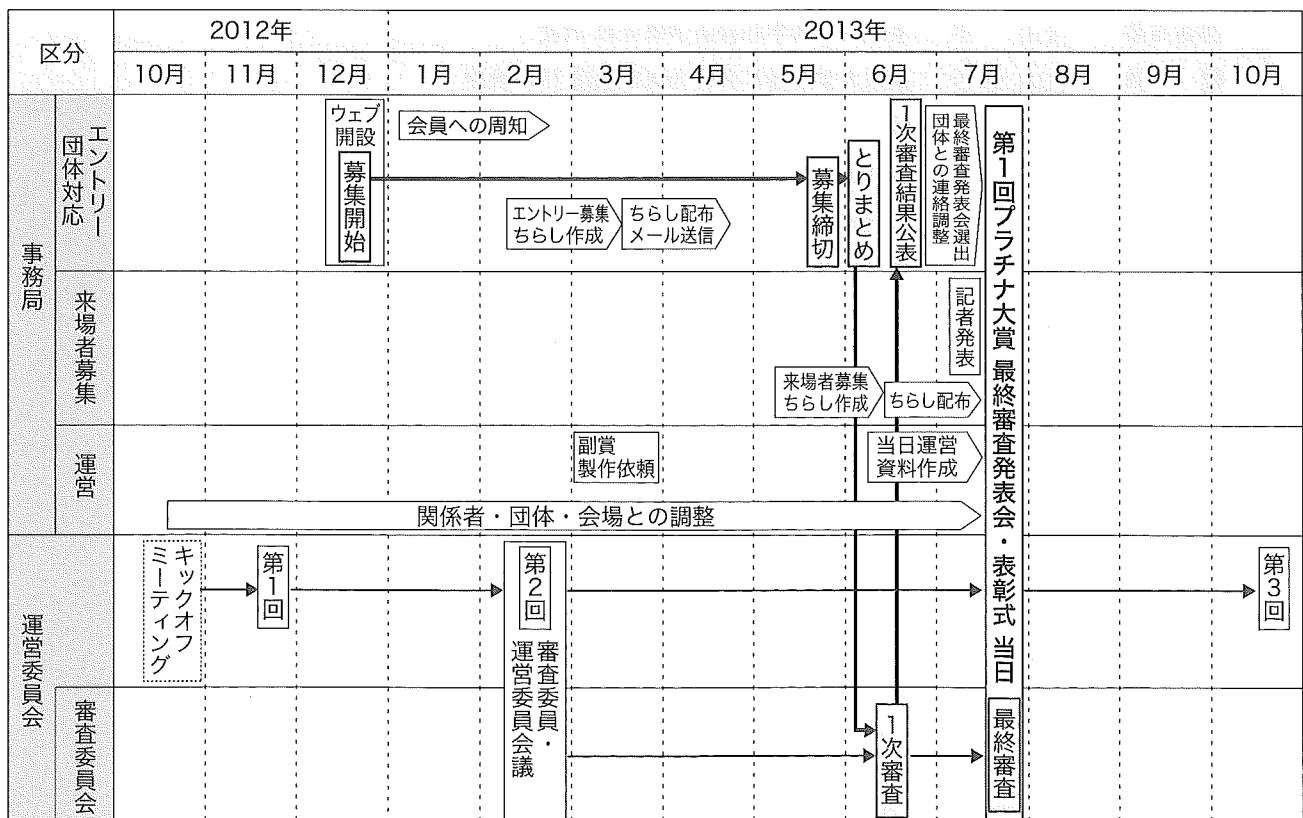
2012年

- 10月 26日 運営委員会キックオフミーティング
- 11月 29日 第1回運営委員会
- 12月 14日 第1回プラチナ大賞エントリー募集開始、特設WEBサイト開設、プラチナ構想ネットワーク会員への周知開始

2013年

- 2月 21日 審査委員・運営委員会議（第2回運営委員会）
- 3月 14日 エントリー募集ちらし作成（2,000枚）、配布・メール送信開始
- 5月 31日 エントリー受付締切
- 6月 19日 1次審査会
- 21日 1次審査結果公表
- 26日 最終審査発表会・表彰式の来場者募集ちらし作成（1,000枚）、配布・メール送信開始
- 7月 8日 第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式の開催をプレス・リリース
- 25日 第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式の開催（最終審査）
- 10月 22日 第3回運営委員会

第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 スケジュール



第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 プログラム概要

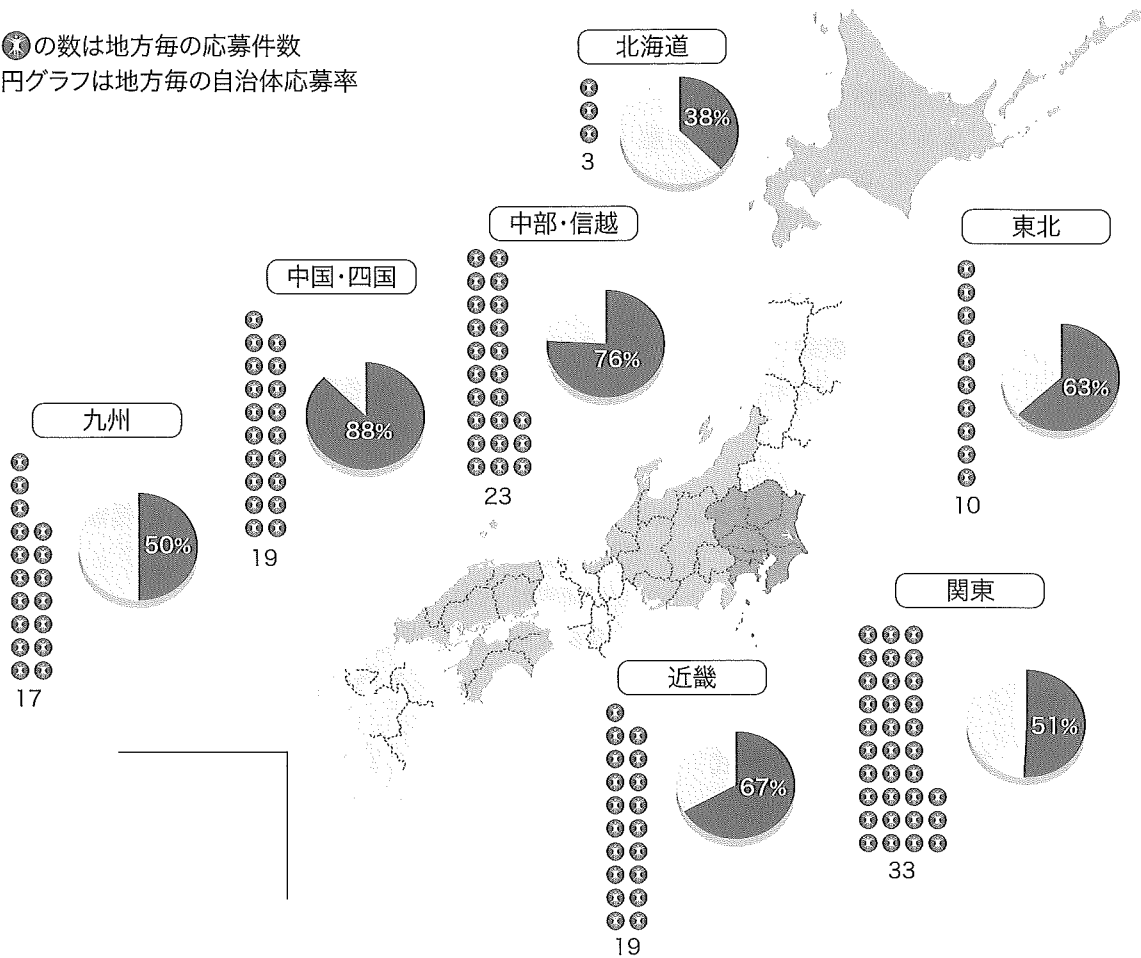
- 13:00 開会挨拶
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
- 13:05 運営委員長・審査委員長挨拶
プラチナ大賞運営委員長 増田 寛也
プラチナ大賞審査委員長 吉川 弘之
- 13:15 来賓ご挨拶
総務大臣 衆議院議員 新藤 義孝氏
公明党 幹事長代行 衆議院議員 斉藤 鉄夫氏
民主党 最高顧問 前内閣総理大臣 衆議院議員 野田 佳彦氏
農林水産大臣 参議院議員 林 芳正氏（祝文代読）
- 13:30 最終審査発表会（プレゼンテーション）
香川県、雲南市、上勝町、柏市、海士町、東松島市、富山市、徳島県、最上町
（発表順）
- 15:05 基調講演・トークセッション [同時間、並行して最終審査会を開催]
テーマ：「プラチナ社会実践の推進ツール『プラチナ構想ハンドブック』」
基調講演 …俯瞰工学研究所 代表 松島 克守氏
トークセッション…俯瞰工学研究所 代表 松島 克守氏
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
- 16:10 審査結果発表／表彰式
- 16:55 閉会挨拶
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 渡 文明
（JXホールディングス株式会社 相談役、日本経団連審議委員会 議長）
- 17:00 閉会・記念撮影
- 17:15 関係者懇親会

応募団体の全体概要

【自治体属性別】

		道府県		市町村		特別区		合計	
応募自治体数	会員自治体数	21	30	48	75	4	13	73	118
自治体応募率		70%		64%		31%		62%	
応募件数		45		67		12		124	

●の数 は 地方毎の応募件数
 円グラフは地方毎の自治体応募率



【地方別】

		北海道		東北		関東		中部・信越	
応募自治体数	会員自治体数	3	8	10	16	18	35	13	17
自治体応募率		38%		63%		51%		76%	
応募件数		3		10		33		23	

		近畿		中国・四国		九州		合計	
応募自治体数	会員自治体数	8	12	14	16	7	14	73	118
自治体応募率		67%		88%		50%		62%	
応募件数		19		19		17		124	

※会員自治体数は応募締切日（2013年5月末日）時点。ただし入会申込手続き中、入会検討中の自治体を含む。

最終審査発表会選出団体（発表順）

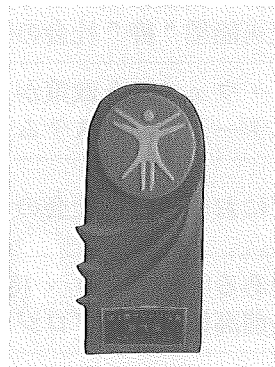
団体名	発表者	取り組み内容の題名
香川県	香川県知事 浜田 恵造	かがわ遠隔医療ネットワーク「K-MIX」を活かした遠隔・在宅医療の推進
雲南市	雲南市長 速水 雄一	小規模多機能自治による持続可能型“絆”社会の構築
かみかつ 上勝町	上勝町長 花本 靖 株式会社 LIXIL 村井 達典	ゼロ・ウェイスト政策から考えるサニテーションシステム
柏市	柏市長 秋山 浩保	柏市における長寿社会のまちづくり
あま 海士町	海士町長 山内 道雄	魅力ある学校づくり × 持続可能な島づくり ～島前高校魅力化プロジェクトの挑戦～
東松島市	東松島市長 阿部 秀保 東松島市建設業協会会長 橋本 孝一	東松島式震災ごみリサイクル (東松島方式震災がれき処理)
富山市	富山市長 森 雅志	コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築 ～ソーシャルキャピタルあふれる 持続可能な付加価値創造都市を目指して～
徳島県	徳島県知事 飯泉 嘉門	とくしまサテライトオフィスプロジェクト ～地域再生のための新たな戦略～
最上町	最上町長 高橋 重美	サステイナブルタウン最上 ～木質バイオマスエネルギーが地域産業を興す～

副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について

各賞受賞団体には、表彰状のほか副賞として津軽金山焼の特製のトロフィーを贈呈しました。



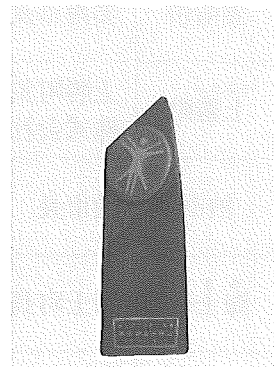
プラチナ大賞



優秀賞



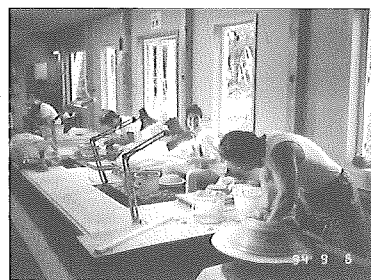
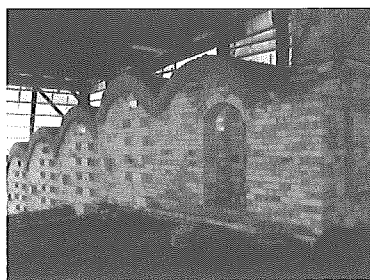
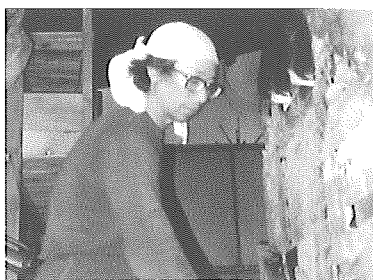
特別賞



プラチナ・イノベーション賞

津軽金山焼は、プラチナ構想ネットワークの特別会員である松宮亮二氏が1985年に青森県五所川原市に立ち上げた窯で、高温で焼きあげる「焼き締め」の手法による、深みのある独特の風合いで知られています。

松宮氏は地域に根差した陶芸産業として金山焼を一から育ててきたと同時に、国内そして海外からも多くの陶芸家の研修生を招き、世代や地域を超えた陶工の育成と、人材・カルチャーの交流を通じた文化芸術面での地域貢献を行っているほか、最近ではやきものを通じた被災地の復興支援活動にも積極的に取り組んでいます。こうした津軽金山焼の取り組みがプラチナ社会の目指す理念に相通じることから、今回特別に副賞を制作いただきました。



| 表彰について

受賞団体一覧

2013年7月25日午後3時から最終審査会が開催され、最終審査発表会に進出した9団体のプレゼンテーションに基づいて、各賞受賞団体が決定されました。当初予定していた大賞、優秀賞、特別賞に加え、審査委員会の総意によりプラチナ・イノベーション賞が追加創設され、それぞれ表彰されました。

▶ プラチナ大賞・総務大臣賞

団体名 海士町（島根県隠岐郡）
 取り組み名 魅力ある学校づくり × 持続可能な島づくり
 ～島前高校魅力化プロジェクトの挑戦～

▶ 優秀賞

団体名 上勝町（徳島県勝浦郡）
 取り組み名 ゼロ・ウェイスト政策から考えるサニテーションシステム

団体名 富山市（富山県）
 取り組み名 コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築
 ～ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して～

団体名 徳島県
 取り組み名 とくしまサテライトオフィスプロジェクト
 ～地域再生のための新たな戦略～

▶ 特別賞

団体名 香川県
 取り組み名 かがわ遠隔医療ネットワーク「K-MIX」を活かした遠隔・在宅医療の推進

団体名 雲南市（島根県）
 取り組み名 小規模多機能自治による持続型“絆”社会の構築

団体名 柏市（千葉県）
 取り組み名 柏市における長寿社会のまちづくり

▶ プラチナ・イノベーション賞

団体名 東松島市（宮城県）
 取り組み名 東松島式震災ごみリサイクル（東松島方式震災がれき処理）

団体名 最上町（山形県最上郡）
 取り組み名 サステイナブルタウン最上～木質バイオマスエネルギーが地域産業を興す～

表彰風景

プラチナ大賞



海士町

総務大臣賞



海士町

優秀賞



上勝町



富山市



徳島県

特別賞



香川県



雲南市



柏市

プラチナ・イノベーション賞



東松島市

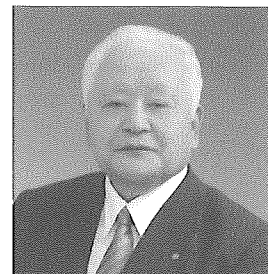


最上町

第1回プラチナ大賞を受賞して

この度は、栄えある第1回プラチナ大賞を戴き大変光栄に存じます。これもひとえに多くの皆様のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

私どものような資源の乏しい島国においては、人こそが最大の資源であり、次代を切り拓く人づくりなしには、この島を守り続けてはいけません。この島の抱える少子高齢化や財政難、人口減少はどれも多くの地域が直面している状況であると同時に、これからの日本や世界が直面する課題でもあります。これらの諸問題の解決は、他の多くの地域の参考になるだけでなく、日本や世界の課題解決に大きな示唆を与えうると信じながら、我々はまさに課題の最前線で「未来の防人」として戦っております。

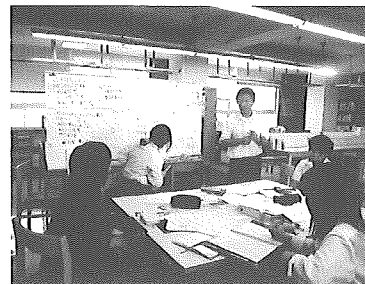
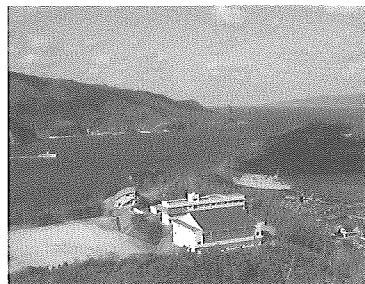
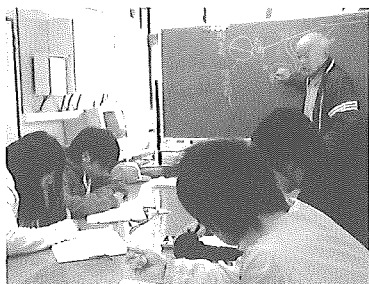
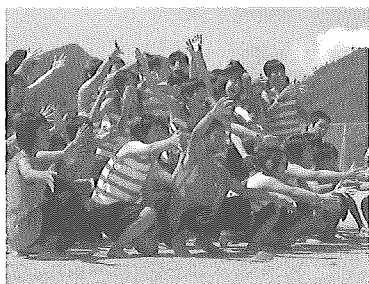


海士町長
山内 道雄

黒船以来、欧米に追いつけ追いこせをやってきた工業化の時代の中で、いつしか「最後尾」「課題の先進地」と言われるようになった小さなこの島が、いつの日にか「課題解決の先進地」として時代や国を引っ張る曳船（タグボート）にならんことを願って。そして何より、我々の孫や曾孫の世代が、「この島で生まれ育って本当に良かった」と誇りと感謝を持って幸せに生きていけるように。我々は魅力ある人づくりによる持続可能な地域づくりを通して、これからの日本や地球の未来づくりに寄与していきます。

プラチナ大賞が、より良い未来を紡ぐべく「地域を変えよう、日本を変えよう、世界を変えよう」と、その一心で血の滲むような努力を重ねながら、志高く希望と勇気を持って取り組まれている全国各地の多くの皆様のための賞として、さらに大きく発展されることを切に願っております。

今後ともご指導ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



最終審査発表会選出団体の プレゼンテーション



※各団体のプレゼンテーション資料は以下のサイトより閲覧することができます。
<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou/>

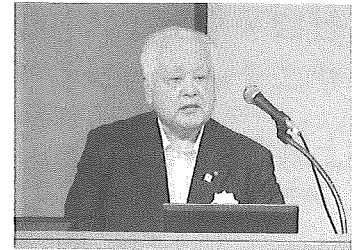
プラチナ大賞・総務大臣賞

魅力ある学校づくり × 持続可能な島づくり

～島前高校魅力化プロジェクトの挑戦～

あまき 海士町 (島根県隠岐郡)

発表者：海士町長 山内 道雄



高齢化コミュニティにおいて「教育」や「学校」に着目し、存続の危機であった島前地域唯一の高校を持続可能な地域づくりの拠点に変えた新たなモデルを紹介します。町村の枠を超えた地域総がかりの協働体制や、高齢者が次世代の地域起業家育成に参画する仕組みを構築し、海外からも離島に子どもが集まり始めています。

1

隠岐国 海士町
魅力ある学校づくり×持続可能な島づくり
島前高校魅力化プロジェクトの挑戦

2

取り組みの背景

3

島前高校への入学者数の推移

超高齢化・後継者不足の影響で入学者数が減少
島の最高学府である高校が存続の危機

4

地域から学校がなくなると...

子連れ家族の流出、地域活力の減退
学校の存続は地域の存続に直結

5

そこで、
高校魅力化プロジェクト発足

危機：高枝という盲点
好機：地域づくりの中核

育・民・産・学の協働により、地域総がかりで学校と地域の魅力化を目指す。

6

学校の存在意義を再定義→ 未来のつくり手の育成

●地域の課題(課題意識)
人口若者流出、後継者不足、産業衰退、公共依存(少子高齢化、文化・行事の衰退、財政難)

●地域の新たな目標
若者定住促進、継承者育成、雇用産業創出、自立共助

●目指される人材
地域で持続可能な事業・産業を創り出せる人(地域起業家的グローバル人材)
「食料」「エネルギー」に加え「人」の自然自生を

7

島まるごと学校構想
高齢者が「先生」 人や自然のつながりを学ぶ

8

高校生がまちづくりを実践
「人とつなかり」を観光資源に変えた

9

地域から世界へ「地域地球学」
エネルギーや海産を活かした課題解決

10

島国の子どもに生じやすい傾向

集団の均質化・価値観の同質化
関係性の固定化

多文化協働力の不足
価値観や視野の固定化
刺激や競争心の不足

11

極上の島留学

この島で、最高の高校生活をすごしませんか

全国から意欲ある脱藩生を募集
「多様性」を学校に持ち込み活性化

12

島の高齢者が「島規」となり
次々世代との交感で、暫の隔垣を越えろす

13

超少子化・超高齢化の地域で
異例の学級増(定員40→80人)が実現

島前高校の生徒数の推移

14

キャリア教育連携推進表彰受賞

新入生の4割強が島外から入学
東京、東北、DTPなどから、今後は更に海外から
国立大進学率や卒業生の動きも変化
海外留学・貢献活動、ビジネスコンテスト参加など

15

子連れ家族の定住
全国から若者も集まる(1人暮らしの人以上)

16

今まで～ 高度成長社会
これから～ 持続可能な社会

17

高度成長社会への
最後尾

アメリカ → 日本

18

最後尾から最先端へ
プラチナ社会への
タグボートに

アメリカ → 日本

19

最後尾から最先端へ
島から日本の未来を
変えるモデルをつくる

アメリカ → 日本

20

高校という盲点からの魅力ある社会づくり
島と世界を結ぶ人づくりを通して未来を創る

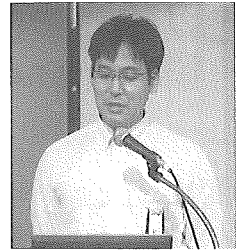
ゼロ・ウェイスト政策から考える サニテーションシステム

かみかつ

上勝町 (徳島県勝浦郡)

発表者: 上勝町長 花本 靖

株式会社 LIXIL 総合研究所 村井 達典



上勝町は2003年に日本初のゼロ・ウェイスト宣言を行い、町民が一丸となった34品目ものごみ分別収集により、高い資源化率と費用削減を実現しました。この取り組みをさらに広げ、水資源や美しい環境を継承するため、町民や株式会社LIXILと共に、新たな排水浄化システムの実証を進め、全国や世界に展開できるモデル作りを目指します。

1

第1回 プラチナ大賞
ゼロ・ウェイスト政策から考えるサニテーションシステム

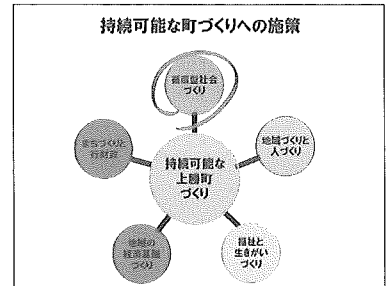
日時	2013年7月25日
場所	都市センターホテル
発表者	徳島県勝浦郡 上勝町長 花本 靖
共同企業	LIXIL (株) LIXIL 総合研究所 村井 達典

2

上勝町の概要

人口 約1,860人
高齢化率 約60%
(2013年7月1日現在)
面積 109km²
うち森林面積 約89%
田舎で一番小さな町

3



4

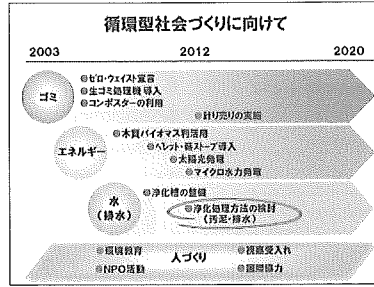
日本で最初にゼロ・ウェイスト宣言を行った町
(2020年まで同規模 1町だけで処分をなくす努力をする)

分別数日本一 134分別資源化
生ゴミゼロ! 全戸自己処理

上勝町資源分別方法

ごみ処理量 全国平均の約半
資源化率 推定80%以上
(生ゴミを含めた割合)
(全国平均20%)

5



6

背景・課題認識

家庭の排水処理 : 下水処理7%, 浄化槽22%
浄化槽の課題 : 汚泥の発生と処理、排水水質向上

⇒ 排水や汚泥もゴミと考え 対策を検討

(上勝町の状況)

上勝町 3,600万円、全国 2,300億円(下水線)

7

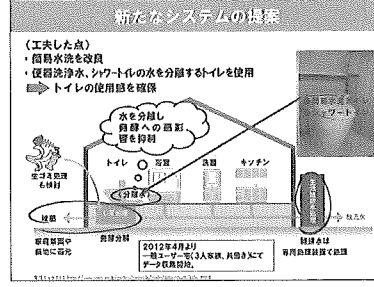
浄化処理方法の検討

し尿や雑排水を地域で処理し、
汚泥も有用資源としてリサイクルする

ゴミ分別の観点から家庭排水の分別を検討。
トイレを分けて 発酵分解処理する。
⇒ 発生する汚泥の削減、放流水質の向上、コスト削減を狙う。

排水処理と発生量	発生量 (kg/人・日)	処理費用 (円/人・日)	リサイクル (kg/人・日)	発生量 (kg/人・日)	発生費用 (円/人・日)
トイレ	15,000	9	0.8	14,200	8.7
キッチン	600	3	0.4	600	3.0
浴室	75				120

8



9

結果と課題

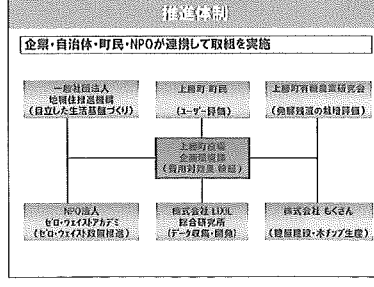
・汚泥引取り不要、資源・リンの放流水質は大きく改善。
・発酵残渣は家庭用堆肥などに利用可。
・町からの要望事項 : 生ゴミとの混合処理、園による認定、負担軽減への対応など。

(現状) (提案システム)

項目	割合	浄化率	資源リサイクル率	備考
排水BOD	kg/人・日	12	10	
処理費用	円/人・日	12	3	・浄化の平均値は10円
雑排水 リサイクル	kg/人・日	3.5	0.2	・3人家族、1戸
ランニングコスト	円/人・日	340	250	

4人家族コストは汚泥引取りと同等とする

10



11

上勝モデルの世界展開

視察来町者数 年間2500名 海外からも100名
ローモデルを構築し、持続可能な「上勝モデル」を
パッケージ化、日本・世界へ展開

ゼロ・ウェイストの仲間

(国内)
徳島県上勝町
徳島県大木町
徳島県水戸町
徳島県明石町
徳島県川島町
徳島県山形町
徳島県徳島市
徳島県吉野町
徳島県多度町

(海外からの視察)
中国 四川省成都市
インド
ケニア
イギリス
アメリカ合衆国 等

12



優秀賞

コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築

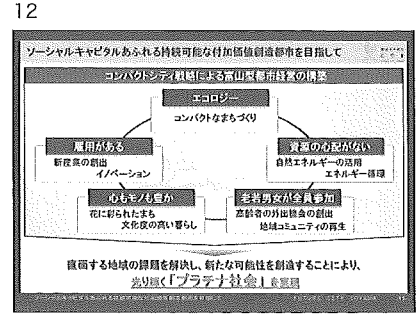
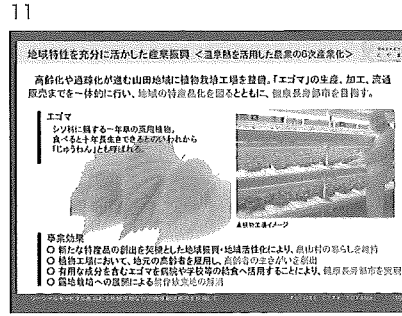
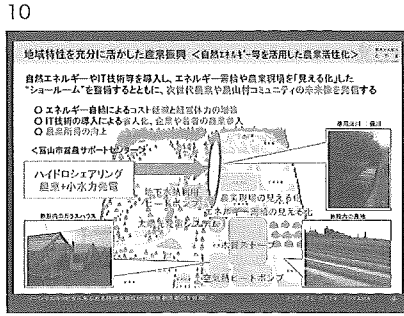
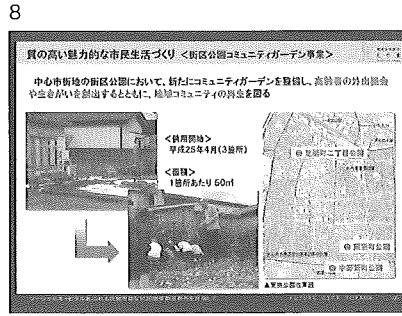
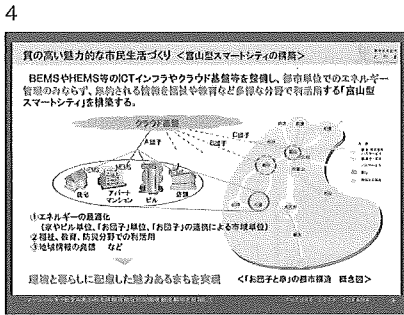
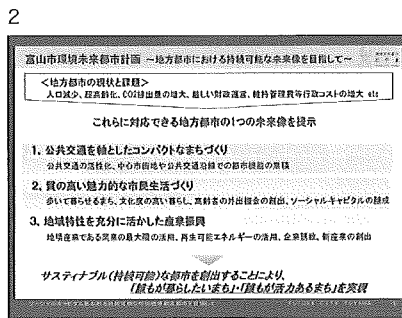
～ソーシャルキャピタルあふれる
持続可能な付加価値創造都市を目指して～

富山市 (富山県)

発表者：富山市長 森 雅志



富山市は、コンパクトシティ戦略を中核に、農山村も含めた市域全体での効率的な都市経営を進めるとともに、超高齢化等に対応した質の高い魅力的な市民生活づくりや再生可能エネルギーなど地域特性を十分に活かした産業振興を図り、ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指します。



とくしまサテライトオフィスプロジェクト

～地域再生のための新たな戦略～



徳島県

発表者：徳島県知事 飯泉 嘉門

「川が歌っている、星が踊っている」と表現される「豊かな自然」と過疎地域の隅々まで整備された「全国屈指のブロードバンド環境」を最大限に活かし、首都圏等のICT企業のサテライトオフィスを過疎集落に呼び込む“ピンチをチャンスに変えるプロジェクト”。「徳島から始まる新しいワークスタイル」を世界に発信します。

1

とくしまサテライトオフィスプロジェクト
～地域再生のための新たな戦略～

2

徳島のキーワードは「ピンチをチャンスに！」

◆地上デジタル放送への移行(100%)

区域外放送の受信が困難に
(デジタル放送の90%が圏外)

デジタル化
伊予越前
地域価値向上

全国CATV網構築 H14～H23 (高速ブロードバンド環境)
→CATV世帯普及率全国1位 88.9%(全国平均91.0%)

◆人口の減少と空き家の増加

人口の推移(S35～H22)	高齢化率(H22)	県外転出の割合(H22)
84.7万人→78.5万人(7.3%)減	27.0%(全国平均21.0%)	35.5%(全国平均15.5%)

空き家や遊休施設が増加！

「NPO・住民・行政」が協働！
知恵を出し合って集落再生に挑戦！ → 空き家・遊休施設の利活用へ

3

サテライトオフィスプロジェクトの展開

◆首都圏や近畿圏のICT企業
東日本大震災を契機に…
①リスク分散を検討
②ワークスタイルを変革

◆経費の立地の低化
○東京の1/10倍の速度で使えるブロードバンド環境
○豊かな自然環境を同時にゲット
○古民家や遊休施設をオーダーメイド型リメイク

◆実証実験(H23～24)
○不測の事態にも事業継続可能
○「昼の空間」でワーク・ライフ・バランス実現
「のびのびとした働き方が！」は地域に根を扎いよう！

◆本格展開(H24～25)
プロジェクト開始からわずか1年あまりで…
・県内3市町に12社が進出！116名の地元雇用創出！
・東京から徳島に本社を移転した企業まで出現！

※ますます拡大中！
2009年10月
1000名超の雇用創出
(H24.4.5)

4

徳島から「新しい働き方」の提案

◆ICTの活用拡大(100%)

<テレワーク> 全国どこでも本社と同じように仕事
・田舎の古民家になりながら都会の雑音を勝手に遮断可
(遊休施設が仕掛けに！)

・介護や育児しながら → 多様な柔軟な働き方
→「介護退職の回避」
「子育て世代の働く機会確保」へ！

◆仕事と趣味を両立しやすく

<半々半IoT>
・心身共にリフレッシュ → 仕事の効率アップへ
(企業H「活性化」と「VPO-アップ」)

※実践したIoT企業は
→売上対前年比260%増！
→徳島に本社を移転(東京をサテライトに！)

ワーク・ライフ・バランスの実現

5

企業と地域がともに課題を解決

◆過疎地でも専任最先端の任務

※山形企業の社員が小中高校へ出前授業

ICTの歴史や進化について講義
○子どもたちの感想
「次はインターネットをだ〜めいばいばい！」
「田舎でも世界有名な仕事ができるのわ！」
→超魅力的な未来の目標の共有を呼び、ふるさとへの自信に

◆過疎地での特長を可能にする実践

◆入居希望の学生と地元高校生が相互に活躍

※IoT企業が主催したインターンシップ

<学生> 高齢者と交流し、新たな視点を獲得
→地域の魅力をPRするアプリを開発
<高齢者> 学生から刺激を
→フェイスブックで投資情報と発信中
→「地域の魅力は私たちが発信する」 情報発信！

高年齢者と学生がWin-Win

6

プロジェクトを支えるプロモーションチーム

◆過疎地を盛り上げるネットワーク

◆NPO

◆NPOの活用
・NPOの活用
・NPOの活用
・NPOの活用

◆NPOの活用
・NPOの活用
・NPOの活用
・NPOの活用

◆NPOの活用
・NPOの活用
・NPOの活用
・NPOの活用

◆NPOの活用
・NPOの活用
・NPOの活用
・NPOの活用

7

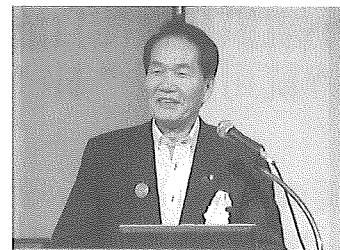
課題先進県から課題解決先進県へ
「集落再生」への処方箋
⇒「とくしまサテライトオフィスプロジェクト」

特別賞

かがわ遠隔医療ネットワーク「K-MIX」を 活かした遠隔・在宅医療の推進

香川県

発表者：香川県知事 浜田 恵造



香川県は日本一小さな県ですが、24の有人離島や無医地区であるへき地を多く抱えており、医師不足や医療資源の欠乏など、脆弱な医療体制が課題でした。このため、香川県では、産官学が協力して「かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）」を立ち上げ、県民がどこでも安心して長生きできる香川づくりを目指しています。

1

2

3

4

5

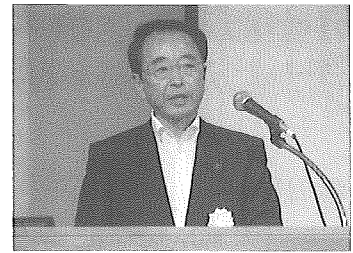
6

7

8

9

小規模多機能自治による 持続可能型“絆”社会の構築



雲南市 (島根県)

発表者：雲南市長 速水 雄一

お互いに顔の見える範囲で、住民一人ひとりが自分達の地域に愛着と誇りを持ち、地域の総合力で地域の課題を自ら解決、創造していく…そんな住民主体の組織が市内全域で結成されています。これが雲南市の地域自主組織です。この仕組みには、全国で直面している人口減少・少子高齢化社会を生き抜くヒントが詰まっています。

1

小規模多機能自治による
持続可能型“絆”社会の構築
～雲南市の地域自主組織～

島根県 雲南市

2

雲南市の概要

● 面積 553.41km² (島根県の約1/3)
● 人口 41,927人 (1995年国勢調査)

3

今後の雲南市の20年間と日本の35年間の
人口減少率は同程度

● 雲南市の人口減少率 約1.2% (2015-2035)
● 日本の人口減少率 約1.2% (2015-2050)

4

● 雲南市の人口減少率 約1.2% (2015-2035)

5

● 雲南市の高齢化率 約28% (2015)
● 日本の高齢化率 約28% (2015)

6

● 雲南市の人口減少率 約1.2% (2015-2035)

7

高齢化率は、日本を20年先行

● 雲南市の高齢化率 約28% (2015)
● 日本の高齢化率 約28% (2035)

8

つまり、
雲南市の人口減・少子高齢化
は日本の近未来の縮図！

人口が2割減少し、
高齢化が進むと…

9

人口減少・少子高齢化は
地域社会崩壊の危機を招く！

10

人口減少・少子高齢化は
地域社会崩壊の危機を招く！

日本の
地域社会は
崩壊の危機

11

“ピンチ”を“チャンス”へ
「地域崩壊の危機」を「ほほよい地域づくり」へ
～新たな地域モデルの構築～

12

身近な事は、できるだけ身近な所で！

13

複合的に連携し、一体的に課題解決

持続可能の地域

地域づくり
地域福祉
生涯学習

安心・安全の確保
歴史・文化の活用

14

その結果…市の財源に頼らない地域なら
ではの活動が続きと誕生！

安心・安全 × 持続可能

15

その結果…地域ならではの創意工夫
による活動が続きと誕生！

16

市民と行政の対等な関係⇒協働関係が成立

17

地域と行政の対等な協議の場

地域行政協議会

協議

地域自主協議

防災、地域福祉、人材育成など
様々な地域課題をテーマに！

18

地域と行政が、公営の福祉向上に向け
相互に高めあうことが可能に！

地域自主協議は、多様な民間・組織の集約体
「スーパー・パートナーシップ」が実現！

地域自主協議

19

新しい公共の創出

小規模多機能自治の進展

その結果

「住民票の発行などの窓口サービス、行政文書の取次ぎ」
漸くは「市民生活の充実が実現している」

「やってもらえていた」から「やがてやってくれる」
と変化した地域が増加。

20

小規模多機能自治の進展により
予測される効果

- ① 地域に誇りや愛着をもつ市民の増加
→ 若年層の定常率増 → 人口の維持
- ② 多様な主体による公共のサービスの増加
→ 公共のサービスの最適化
- ③ 行政規模・コストの最適化

21

「雲南市に地域自治を学ぶ会(雲南ゼミ)発足！

目的：相互に学び、それぞれの地域で実践する。
目標：3年間で約100名の会生を輩出し、全国各地で実践・展開を8割以上果たした地域自治に取り組む。

雲南ゼミ 八則(骨子)

- 一、「学ぶ」
- 二、「繋ぐ」
- 三、「伝える」
- 四、「促す」
- 五、「仕組みを学ぶ」
- 六、「手伝う」
- 七、「読む」
- 八、「書く」

22

全国各地から参加

毎年5月と11月に開催
今年5月には、北海道から九州まで、
自治体やNPO法人、学識経験者など、
29団体43名が参加。

23

市民力の結集による小規模多機能自治の展開

新しい自治への挑戦！

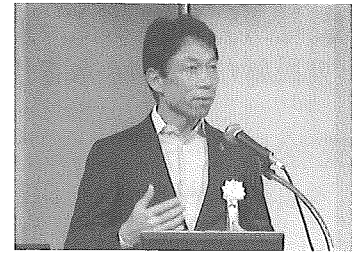
プラチナ社会の実現

24

幸運なんです。
雲南です。

特別賞

柏市における 長寿社会のまちづくり



柏市 (千葉県)

発表者：柏市長 秋山 浩保

柏市では、都市部の高齢化に伴い、長寿社会に対応するべく「いつまでも在宅で安心した生活が送れるまち」・「いつまでも元気で活躍できるまち」の実現に向け、地域包括ケアシステムの具体化や高齢者の生きがい・就労の場の創成に取り組み、高齢者が住み慣れた地域で、住み続けることができる「まち」の具現化を目指します。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

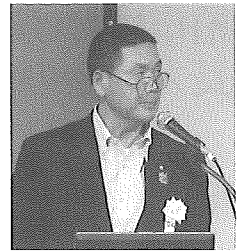
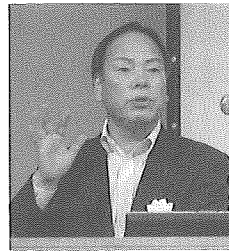
21

東松島式震災ごみリサイクル (東松島方式震災がれき処理)

東松島市 (宮城県)

発表者: 東松島市長 阿部 秀保

東松島市建設業協会会長 橋本 孝一



東松島市は東日本大震災で発生した大量のがれきの97%以上を、市民を雇用した徹底した分別でリサイクルし、処理コストも大幅に削減しました。そこには過去の地震の教訓を活かした独自の備え、そして市民や事業者の故郷再生への強い想いがありました。「自らの手でまちを再生し、未来につなげる」復興のモデルを提案します。

The presentation consists of 13 numbered slides:

- Slide 1:** Overview of the Tohono Island style disaster waste recycling plan.
- Slide 2:** Map of Tohono Island City's location.
- Slide 3:** Statistics on damaged areas, noting that 65.9% of the city's residential area was flooded.
- Slide 4:** Total amount of disaster waste: approximately 326,000 tons, equivalent to 100 years of normal waste.
- Slide 5:** Detailed recycling plan and organizational structure.
- Slide 6:** Photos of the recycling site and equipment.
- Slide 7:** Information on the recovery of the local economy through recycling.
- Slide 8:** Photos of the disaster site and the recycling process.
- Slide 9:** Overview of the recycling plan, highlighting that 97% of waste is recycled.
- Slide 10:** Comparison of different recycling methods and their costs.
- Slide 11:** Summary of recycling status and cost savings, showing a 20.8-fold cost reduction.
- Slide 12:** Key achievements: 97% recycling rate, cost reduction, and employment of 200 people.
- Slide 13:** Summary of the plan, emphasizing cost reduction and job creation.

プラチナ・イノベーション賞

サステイナブルタウン最上
～木質バイオマスエネルギーが地域産業を興す～



最上町 (山形県最上郡)

発表者：最上町長 高橋 重美

荒廃した森林を整備し木材をエネルギー利用することで、森林が再生され、地域産業と若者の雇用が生まれます。最上町では、木材の生産から使用・消費までを一体で管理・運営する林業システムをメインに、農業、観光等を含めた地域産業の活性化を目指しており、町に暮らす人々の生きがいの創出と、里山の文化継承を行っています。

1 「自治協働のまちづくり」 田園空間博物館の創造
山形県最上町長 高橋重美

2 田園空間博物館の創造 100万人交通促進条例
緑のまちづくり
山形県最上町長 高橋重美

3 バイオマスエネルギー 地域システム化実験事業
21世紀は環境の時代
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

4 バイオマスエネルギーの生産
GISを利用した計画的なバイオマスの利活用
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

5 河川開削「一役三舞方式」

6 高性能織機導入

7 テッププラント

8 エネルギーの活用・施設利用(システム) 町工場
水質改善システム
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

9 ライフラインの強化
特別養育老人ホーム
バイオマスプラント

10 【人にやさしい街づくり】 緑のまちづくり
クリーンエネルギーで貢献 (総額換算4千万円)
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

11 「地域自立分散型」エリア供給システムの構築
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

12 環境クレジット認証制度
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

13 若者定住対策 観光交流事業
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

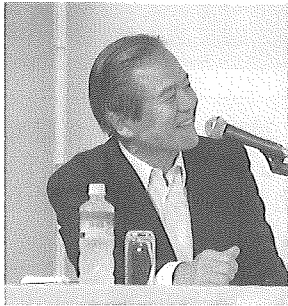
14 教育旅行
グリーンツーリズム
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

15 最上町復興の森づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

16 町民協働のまちづくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり
【再生への約束】 人にやさしい街づくり

| 基調講演・トークセッション

基調講演・トークセッション



【基調講演】

テーマ：「プラチナ社会実践の推進ツール『プラチナ構想ハンドブック』」

俯瞰工学研究所 代表 松島 克守氏

【トークセッション】

俯瞰工学研究所 代表 松島 克守氏

プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏

〈要旨〉

『プラチナ構想ハンドブック』は、プラチナ構想の理解・普及を図るためのツールにとどまりません。例えば、プラチナ構想ネットワークにおける人財育成の活動であるプラチナ構想スクールの教科書として活用しているほか、今後はこのハンドブックに実装された知識を活用して、各地域における課題の解決の支援や、優れた取り組みの横展開を促進するためのツールとなるよう、更なるシステム構築を行っていく予定です。そのために Web サイトも構築し、今後様々な知識を追加することにより、成長するシステムとして設計していることも、他に無い大きな特色です。将来的には会員の方々にも、ぜひ知識の追加に係る活動に参加していただきたいと思っています。

現在は、各地域の優れた取り組みの横展開を図るため、その取り組み内容の要素を分解してハンドブックに格納するために、事例に基づく「行動の構造化」を行っています。具体的には、留萌市におけるコホートの事例の構造化、山村におけるマイクロ水力発電のフィージビリティスタディーおよびシステム設計を行っています。今後の『プラチナ構想ハンドブック』の進展に、ぜひご期待ください。

1

「プラチナ構想ハンドブック」というプロジェクト
(社)創園工学研究所

5

システム構成

9

WEB版プラチナ構想ハンドブック

13

iphone(スマホ)でも読めます

17

プロジェクトモデルの構造

21

小水力発電プロジェクトの規制

2

プラチナ構想推進の「知恵袋」

6

公開閲覧サイトと編集サイトの機能

10

ハイパーリンクで情報を付加

14

英語版をAmazon,Appleで全世界販売

18

留萌のこホート活動

22

「行動の構造化」システムの構想

3

プラチナ構想ハンドブックのコンセプトデザイン

7

プラチナ構想ハンドブックの活動

11

電子書籍の販売

15

オンデマンドで印刷された書籍も

19

実証プロジェクト:マイクログ水力発電

23

編集グループ参画のお願い!

4

システムの機能要件

8

プラチナ構想ハンドブック

12

電子書籍(.book)の画面

16

プラチナ構想ハンドブック 第4部 行動の構造化

20

相反転方式発電機とは

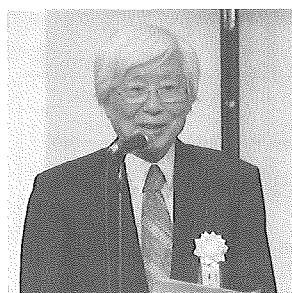
24

編集局の作業内容

審査委員長 講評

プラチナ大賞
審査委員長

吉川 弘之



まず大賞を受賞された海士町をはじめ、受賞された方々のこれまでの努力に心から敬意を表し、お祝いを申し上げたいと思います。

審査委員会では、いろいろな観点から議論いたしました。まず「プレゼンテーションの上手さ」という項目につきましては、各地方自治体の首長の皆さんが大変お上手で、全員 100 点満点でございました。その他の項目についても様々に議論いたしました。プラチナ構想の実現に本当に向かっているなということ、いずれの発表からもしっかりと感じとることができたと言えます。

また、構想的的確性でございますけれども、現在住んでいる人々が素晴らしい環境を作っていくという、非常に地域性に立脚したやり方で取り組みを実現したという点も優劣つけがたく、すべて素晴らしい実績であったと思っております。それから、これは私見ですが、今回は課題が一体どこにあるのかということを徹底的に、地域の現実に根ざして解き起こし、課題の

解決の過程において、技術があるから何かしらのイノベーションを、という流れではなく、課題がそこにあるから必要な技術を使おうという流れが見事に示された例がありました。こうした事例に見られるような皆様の努力というものが、おそらく国のイノベーション政策にも大きな影響を与えるのではなかろうかと思えます。

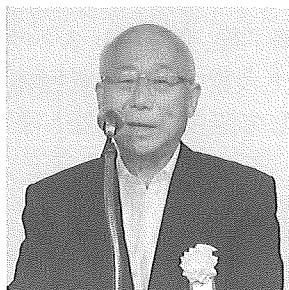
すべての取り組みが素晴らしい実績でしたが、あえて言えば、どこまでの確に地域の問題点・課題を発掘し、地域で合意し、そして、自分たちが影響を受ける政策というものにどうやって自ら貢献したか、あるいは自分たちの町が持っている問題点と、自分たちの住んでいる環境が持っている利点や資源、眠っている資源をどのように使ったか、その上でそれらに対する人々の努力が、どの程度スムーズに、また有効だったか、というような観点から比較検討し、審査の議論をさせていただいた結果である、ということかと考えています。

結果はこのようになりましたが、いずれの団体も様々な取り組み分野において素晴らしい内容であったと思います。あえて言えば、たくさん科学技術があるので、それらが今後ますます利用され、プラチナ社会実現のための努力が、今後さらに他の団体でも行われているということ、心から祈念いたしまして、講評とさせていただきます。

閉会挨拶

プラチナ構想ネットワーク
幹事長

渡 文明



第6回プラチナシンポジウム、第1回プラチナ大賞の最終審査発表会ならびに表彰式の閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、ご多忙の中、本日の発表会に最後までご列席いただいた皆様方に、心より御礼申し上げます。

プラチナ大賞および総務大臣賞を受賞された海士町に対しまして、心からお祝いを申し上げます。また、優秀賞ほか各賞を受賞された自治体におかれましては、120件超もの応募の中から最終審査に残った取り組みであり、いずれも甲乙つけがたく、大変審査が難しかったと思います。今回最終審査に残った取り組みは、日頃の地元の皆様の努力や情熱が実った成果であり、心から敬意を表する次第です。

本日発表された各地の取り組みをお聞きしておりますと、全国の自治体が共通して抱えている人口減少・少子高齢化をはじめとして、医療、介護、環境・エネルギー、雇用といった様々な分野の課題をいかに解決していくかのヒントが数多くあったように思います。こうした取り組みが、プラチナ構想ネットワークを通じて、全国に横展開され、新たなシーズ（種）が生まれてくることを大いに期待しています。

さらに、将来的には、そのようなシーズをもとに新たな産業が各地で芽生え、海外への輸出等により日本の経済再生と発展につながっていくよう、ビジネスの展開においても大いに期待しております。

最後になりましたが、このプラチナ大賞に総務大臣賞という形で花を添えていただきました新藤総務大臣をはじめとする関係者の方々に、心から感謝申し上げます。

ぜひこれを機に、全国の団体が来年のプラチナ大賞を目指すことを期待するとともに、会場の皆様方のますますのご繁栄、ご発展をご祈念申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

関係者懇親会

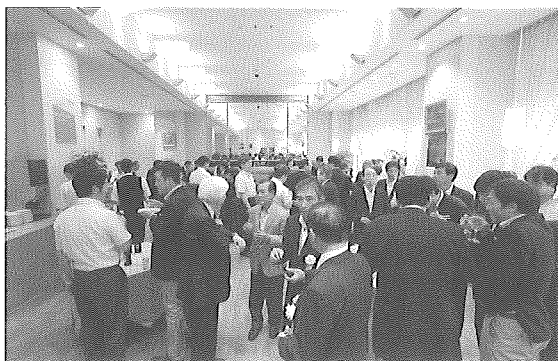
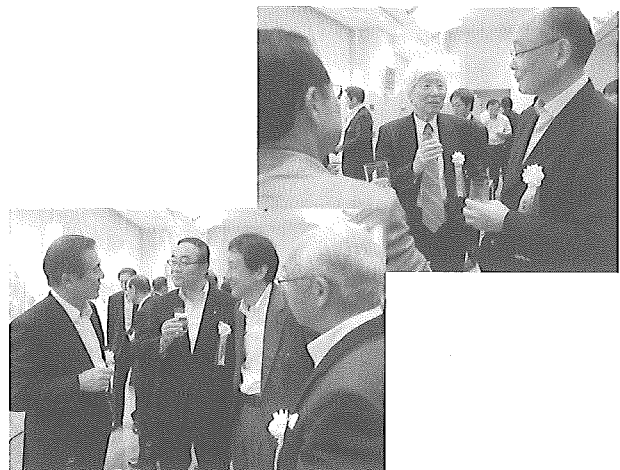
第1回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式の終了後、会場内レストラン「アイリス」にて、来賓である柴山昌彦総務副大臣をはじめ、プラチナ大賞の各賞受賞団体、プラチナ構想ネットワーク会員、主催者等、関係者約60名が参加して懇親会を開催しました。



柴山総務副大臣ご挨拶



増田運営委員長による乾杯



多数の方が参加し熱気あふれる会場

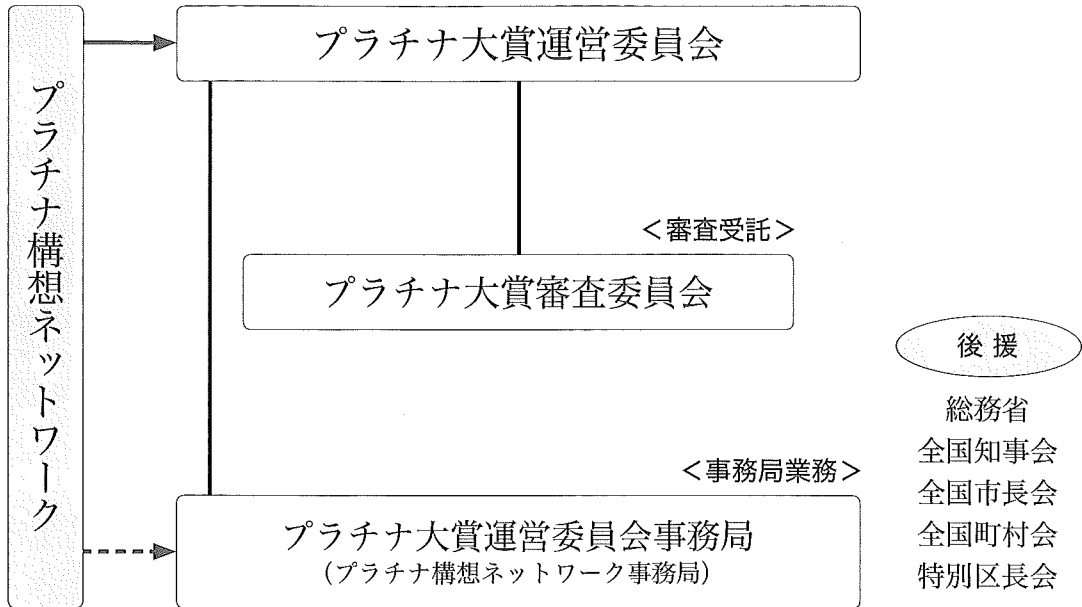


岩沙副幹事長による閉会ご挨拶



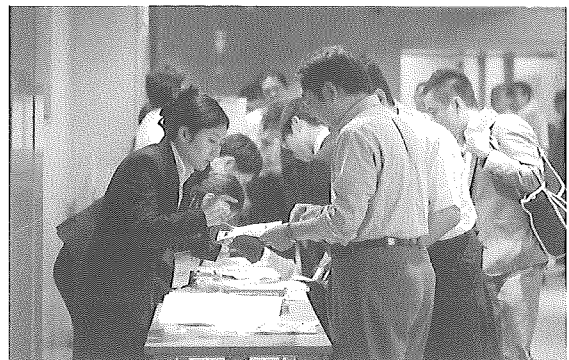
資料編

運営委員会組織と事務局運営体制



第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 参加者数

	参加者数
会員・発表団体関係者	157
その他招待者（連携団体関係者等）	83
審査委員等主催者側関係者	4
マスコミ	12
来賓・総務省関係者	9
事務局関係者	16
イベントスタッフ	14
合 計	295



広報実施概要

① プラチナ構想ネットワーク会員への開催告知 … 2012年12月

第5回シンポジウムにて開催発表し、直後にプラチナ構想ネットワーク会員へ電子メールにて開催を告知

② エントリー募集ちらしの配布 … 2013年3月

エントリー募集ちらし2,000枚をプラチナ構想ネットワーク会員や関係者に送付ならびに電子メールを送信

プラチナ大賞
ここに、輝く未来がある。
第1回 プラチナ大賞

応募資格
本賞の対象となるのは、「プラチナ大賞」の趣旨に即する者であり、日本が先進国として直面する課題の解決、新たな可能性の創造によってたらされる二倍から三倍の成長をプラチナのように実現もって送り届けることである。

賞状
大賞 賞状及び賞金(12万円) 優秀賞 賞状及び賞金(12万円) 特別賞 賞状及び賞金(12万円)

応募期間
平成25年5月31日(金) 17時 必着

応募方法
1. 応募方法
「プラチナ大賞」の応募フォームに必要事項を記入し、Eメールにて応募してください。

お問い合わせ
お問い合わせ先：プラチナ大賞事務局
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本橋三井ビルディング10F
TEL: 03-5561-3116 FAX: 03-5561-3117 E-mail: platinum@platinum-network.jp

第1回 プラチナ大賞 エントリー方法

エントリーされる皆様へ
「プラチナ大賞」の趣旨に即する者であり、日本が先進国として直面する課題の解決、新たな可能性の創造によってたらされる二倍から三倍の成長をプラチナのように実現もって送り届けることである。

応募資格
以下のコンセプトに基づいた社会課題の解決に即する者であること。

応募方法
1. 応募方法
「プラチナ大賞」の応募フォームに必要事項を記入し、Eメールにて応募してください。

お問い合わせ
お問い合わせ先：プラチナ大賞事務局
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本橋三井ビルディング10F
TEL: 03-5561-3116 FAX: 03-5561-3117 E-mail: platinum@platinum-network.jp

③ 来場者募集ちらしの配布 … 2013年6月

来場者募集ちらし 1,000 枚をプラチナ構想ネットワーク会員や関係者、後援団体等に送付ならびに電子メールを送信

④ 報道関係者への広報 … 2013年7月

全国紙主要各紙、その他テレビ、雑誌、各関連業界専門紙等の報道関係者に第1回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式の開催についてリリース文書を送付

NEWS RELEASE

関係各位

2013年7月8日
プラチナ構想ネットワーク

プラチナ構想ネットワーク 第6回シンポジウム
「第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式」の開催
～大賞受賞団体には総務大臣賞も併せて授与されます～

プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 徹、東京都千代田区平河町二丁目10番3号）は、2013年7月25日（木）に第6回シンポジウムとして「第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式」を開催します。

当会は、日本が先進国として直面する課題の解決と、新たな可能性の創造にもたらされる益から快適な社会を「プラチナ社会」として目指しています。

今回大会が開催した「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出や、アジア近れる方面による地域振興の促進によって、この「プラチナ社会」を目指す各団体の取り組みを表彰するものです。第1回大会は全国公募制の団体等から14団体の応募があり、そのうち9団体の取り組みが最終審査に選出されました。

最終審査発表会・表彰式当日は、この9団体が面接取り組みに臨みプレゼンテーションを実施し、更には演説等を含んで引き続き表彰される表彰式にて、大賞給賞の発表と授与を行います。

また、大賞受賞団体に対しては、総務大臣より併せて総務大臣賞も授与されることとなっています。

今回のプラチナ大賞の選定もまた、「プラチナ社会」の目指す未来の社会性を国内に幅広く発信し「プラチナ社会」実現に向けたビジョンや具体的なアクションの発信・促進を図りたいと考えています。皆様のご協力を心よりお待ちしております。

※プログラム、プラチナ大賞の詳細については、別添のリーフレットをご覧ください。

◆本件に関するお問い合わせ先

プラチナ構想ネットワーク <http://www.platinumnetwork.jp/>
〒100-8141 東京都千代田区平河町二丁目10番3号 美空キャナルタワー5階
事務局（プラチナ大賞最終審査委員事務局） 総務 総務
電話 03-6765-6413 FAX 03-5234-5553
Email: pt@platinumnetwork.jp

⑤ WEB サイトでの広報 …2012年 12月

エントリー募集、1次審査結果、来場者募集、表彰結果等について、逐次プラチナ構想ネットワークホームページ内 (<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou/>) の特設 WEB サイトに掲載

プラチナ大賞とは

プラチナ大賞

第1回プラチナ大賞

平成25年11月25日(木)
プラチナ構想ネットワーク創立10周年記念

「プラチナ大賞」とは

「プラチナ大賞」創設の目的

「プラチナ社会」の意味

「プラチナ大賞」の意義

最終審査発表会・審査結果

プラチナ大賞

第1回プラチナ大賞

平成25年11月25日(木)
プラチナ構想ネットワーク創立10周年記念

最終審査発表会・審査結果

「第1回プラチナ大賞」最終審査発表会・表彰式 報告

第1回プラチナ大賞 最終審査結果

大賞	受賞者	受賞理由
大賞	旭市	「旭市ふるさとづくり×持続可能なまちづくり」
最優秀賞	上野市	「緑・水・土・空から見える未来のまちづくり」
優秀賞	山形市	「コンパクトシティ推進による都市再生」
特別賞	岩手県	「おがわ清流プロジェクト」
プラチナ・イノベーション賞	山形県	「おがわ清流プロジェクト」

第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

「第1回プラチナ大賞」最終審査発表会・表彰式

第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

最終審査発表会選出団体

プラチナ大賞

第1回プラチナ大賞

平成25年11月25日(木)
プラチナ構想ネットワーク創立10周年記念

最終審査発表会選出団体

最終審査発表会選出団体

団体名	取組内容
旭市	「旭市ふるさとづくり×持続可能なまちづくり」
上野市	「緑・水・土・空から見える未来のまちづくり」
山形市	「コンパクトシティ推進による都市再生」
岩手県	「おがわ清流プロジェクト」
山形県	「おがわ清流プロジェクト」

プラチナ大賞

第1回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

平成25年11月25日(木) 13:00 ~ 17:00 (祝日)

会場： 都立センタービル (旭市・旭市)

プログラム

- 開会挨拶
- 最終審査発表会
- 表彰式
- 閉会挨拶

最終審査発表会・表彰式

最終審査発表会・表彰式

スケジュール・審査

プラチナ大賞
プラチナ奨励ネットワーク

プラチナ大賞とは
最終審査委員会・審査員
最終審査委員会委員の選出
スケジュール・賞状
表彰
審査委員会

第1回プラチナ大賞

平成25年7月25日(木)
プラチナ奨励ネットワーク・オンラインポータルにて

スケジュール・審査

スケジュール

募集期間	平成24年12月1日(金)
応募締切	平成25年3月31日(金) 17時・心電
一次審査	平成25年4月中旬
二次審査	平成25年7月25日(木) (プラチナ奨励ネットワーク・オンラインポータルでのプレゼンテーションを審査)
賞状授与式・表彰	平成25年7月25日(木) (プラチナ奨励ネットワーク・オンラインポータルにて実施)

※一次審査・二次審査の結果は全て応募者へ通知するとともに、プラチナ奨励ネットワークのホームページにて公開します。
URL: <http://www.platinanet.or.jp>

審査方法

プラチナ奨励ネットワークの学識者委員、および外部の有識者等が構成する「プラチナ大賞審査委員会」(委員長: 石川弘文元関西大学学長)により審査を行います。

審査方法は以下のとおりとなります。

一次審査: 応募資料(応募書類と応募資料)による書類審査
二次審査: 一次審査にて選定された応募資料のプレゼンテーションを審査
※選定結果が確定後に全ての応募者へ通知します。

審査の主なポイント

以下の1~4のポイントを重視しつつ、総合的に判断して審査を行います。

1. ビジネスの具現
 - ・「プラチナ社会」の発展に貢献したものであることが実証できるか
2. マルチステークホルダーの協働
 - ・産(企業)・官(自治体)・学(大学等)など複数のステークホルダーが連携し、それぞれが持っている長所を十分に発揮できているか
 - ・協働の仕組みが明確か
3. 社会課題の解決への可能性
 - ・当該取り組みが社会課題の解決に貢献する「価値」を創出し、当該取り組みの長所、特色等を通じて当該社会課題の向上に寄与できるか
4. 創造性・革新性
 - ・アウトプットや活動のプロセスが社会課題に新しい視点や工夫がみられるか
 - ・イノベーション、新産業の創出にその長所が活かせるか
5. 持続性
 - ・当該取り組みが持続可能な仕組みとして、効果が認められる持続可能な仕組みとなっているか
 - ・組織や人材が確保されていることによる持続可能性が確保されているか
6. 持続可能性
 - ・当該取り組みが持続可能な仕組みとして「価値」を創出していることのない運営を志向しているか、また当該取り組みを継続的に維持・発展させるための仕組みが確立されているか
7. 地域への貢献可能性
 - ・当該取り組みが地域への発展に貢献可能な仕組みを構築した取り組みであるか、あるいはローカルイノベーションを促したうえで、当該地域を活性化しているか

主催: プラチナ大賞審査委員会

表彰

プラチナ大賞
プラチナ奨励ネットワーク

プラチナ大賞とは
最終審査委員会・審査員
最終審査委員会委員の選出
スケジュール・賞状
表彰
審査委員会

第1回プラチナ大賞

平成25年7月25日(木)
プラチナ奨励ネットワーク・オンラインポータルにて

表彰

賞状授与式の日(木)当日のプラチナ奨励ネットワーク・オンラインポータルにて表彰式を行なう予定です。詳細は別途お知らせいたします。

大賞	1団体(賞状及び賞状(記念品))
優賞賞	各2団体(賞状及び賞状(記念品))
特別賞	各2団体(賞状及び賞状(記念品))

なお、大賞や優賞賞、特別賞を各団体の複数団体の両団体が、「プラチナ奨励ネットワーク」に特別として登録・活用する予定です。

主催: プラチナ大賞審査委員会

審査委員会

プラチナ大賞
プラチナ奨励ネットワーク

プラチナ大賞とは
最終審査委員会・審査員
最終審査委員会委員の選出
スケジュール・賞状
表彰
審査委員会

第1回プラチナ大賞

平成25年7月25日(木)
プラチナ奨励ネットワーク・オンラインポータルにて

審査委員会

委員長	石川 弘文 元関西大学学長、元関西大学名誉教授、元関西経済大学学長、元日本学術会議委員(元副議長)
委員長候補	井川 洋 東京大学大学院経済学研究科教授
委員	丸山 弘子 東京大学大学院経済学研究科特任教授 佐藤 直夫 株式会社日本経済新聞社、株式会社日本経済新聞社 佐藤 雅也 株式会社経済産業省政策研究センター、元経済産業省、元経済産業省 松本 義孝 株式会社三菱商事(株)、元三菱商事(株)社長 斎藤 孝人 株式会社フジテレビジョン(株)取締役、元取締役

主催: プラチナ大賞審査委員会

主なメディアの掲載一覧

新聞

河北新報 (2013年7月26日朝刊)

豊かな社会実現目指すプラチナ大賞

東松島市に特別賞

がれき分別処理に高評価

豊かで快適なプラチナ社会の実現に向け、な取り組みをたたえる「第1回プラチナ大賞」が25日発表され、東松島市が特別賞に選ばれた。東日本大震災で発生したがれきの処理方式が高く評価された。

東松島市は分別を徹底し、がれきの処理を他市に比べ、がれきの分別を徹底し、自治体にも展開でき、資源などに再利用、手作りのインテリジェントな取り組みが、00人の被災者を雇用の処理作業に従事している被災者も、分別などに東京・都市センターホテルで住民のおおかけで、受賞できた」と話した。プラチナ社会は、先進

国として直面する課題を、全固から44件の解決可能な可能性を創造する未来のあるべき社会。大賞は自治体や企業、研究機関などで、最上町も大賞ハイオマスプラチナ構想ネットワ―(東松島)が創設、奨励を受けた。

上村全柔連会長、辞任前倒し示唆、内閣府からの勧告で8月未だの体制再構築を、月未だの体制再構築を求められている全日本柔道連盟(柔連)の上村、革を前倒しする可能性を

上村会長は、辞任前倒しを示唆した。上村会長は、8月未だの体制再構築を、月未だの体制再構築を求められている全日本柔道連盟(柔連)の上村、革を前倒しする可能性を

北日本新聞 (2013年7月26日朝刊)



第1回プラチナ大賞

富山市 優秀賞に

コンパクトシティ提案

エコで健康で快適なまちづくりに目指す企業や自治体などでつくるプラチナ構想ネットワーク(会長・小宮山宏三、副会長・研究理事長)が創設した第1回プラチナ大賞の最終審査が25日、東京・平河町の都市センターホテルで行われた。富山市は環境未来都市の取り組みとして「コンパクトシティ提案」が優秀賞に選ばれた。

富山市は環境未来都市の取り組みとして「コンパクトシティ提案」が優秀賞に選ばれた。富山市は環境未来都市の取り組みとして「コンパクトシティ提案」が優秀賞に選ばれた。

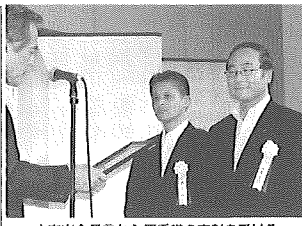
徳島新聞 (2013年7月26日朝刊)

地域課題解決のプラチナ大賞

県と上勝町に優秀賞

徳島県と上勝町は、地域の課題解決に貢献した取り組みをたたえる「第1回プラチナ大賞」の優秀賞に選ばれた。徳島県は、地域の課題解決に貢献した取り組みをたたえる「第1回プラチナ大賞」の優秀賞に選ばれた。

徳島県は、地域の課題解決に貢献した取り組みをたたえる「第1回プラチナ大賞」の優秀賞に選ばれた。徳島県は、地域の課題解決に貢献した取り組みをたたえる「第1回プラチナ大賞」の優秀賞に選ばれた。



小宮山会長から優秀賞の表彰を受ける
徳島県知事 上勝町長

(徳島新聞社提供)



技術革新による新産業創出など、豊かで快適な地域づくりへの施策をたたえ、第1回プラチナ大賞の最終審査会は25日、都内で行われた。大賞に次ぐ優秀プラチナ大賞で優秀賞に選ばれ、表彰式に臨む森富山市長(左)

賞には、公共交通を軸にしたコンパクトなまちづくりなど富山市の「環境未来都市」の取り組みが選ばれた。同賞は自治体や企業などでつくる「プラチナ構想ネットワーク」が創設、世界に先駆けて高齢化などに直面する「課題先進国」の日

「環境未来都市」選出

富山市長「高い評価ありがたい」

森市長「高い評価ありがたい」

富山市長「高い評価ありがたい」

先進地域活動「プラチナ大賞」

「島根高魅力化」が最優秀

住民参加に高い評価

島根県の島根地区3町村が取り組んでいる島根県立高等学校(島根海士町)の魅力化プロジェクトが、全国の先進的な地域活動に贈られる第1回プラチナ大賞で最優秀の大賞に選ばれた。地域の課題解決に向け、学校だけでなく、住民が広く活動にかかわっている点が高く評価された。

プラチナ大賞は、関東圏内で最終審査を通じて持続可能な島根県が協力する。あつた。つくりを指し、島根県とで地域課題の解決を、最終審査には、海士3町村が一体となり2町指す島根県の島根地区の山内道雄町長が010年から取り組んだ。プラチナ大賞は、出陣し「子育て島」で、島根県立元東大森(小宮山)で周るまで教育の「具体的には島根県立元東大森(小宮山)で周るまで教育の」が創設。アイデア全体の活力アップにつ、自治体をサポートするあふれる取り組みを表彰。島留学制度▽大手開いていきたい」と、予備校の元講師らが指導する公設塾の設置▽初の大賞を自負し、レゼンテーションし、専門学校進学や就職など、全開の会から124件、島根県立高等学校の魅力と多様なニーズに対応する。島根県立高等学校の魅力を、多様なニーズに対応する。島根県立高等学校の魅力を、多様なニーズに対応する。島根県立高等学校の魅力を、多様なニーズに対応する。

島根海士町は、町長が「これまでの取り組みが、100年度から100年度にわたって、40人に渡った定員入付くりをあらため、12年度にもクラスで実感したと喜びを80人に伝えた。

島根・海士町に「プラチナ大賞」

高齢化の課題解決を牽引する「島留学」制度、社会の高齢化がもたらす課題を新産業の創出や斬新なアイデアによって解決しようとする地域の取り組みを表彰する「第1回プラチナ大賞」(主催、プラチナ構想ネットワーク)の最終審査発表会が25日、東京都内のホテルで開かれた。最優秀賞である大賞には島根県海士町の「魅力ある学校づくり」×「持続可能な島づくり」が選ばれた。

第1回となる今回は全国73の自治体から124件の応募があり、海士町や富山市など9つの自治体が最終審査に進んだ。島根県立元東大森にある海士町は、地域唯一の高校を廃校の危機から救うため、高齢者と生徒の交流促進や、島外からの生徒を3年間受け入れる「島留学」などを約10年前から進めた。生徒数を6割近く増やすことに成功した。

WEB サイト

総務省

The screenshot shows the official website for the 11th Platina Award ceremony. The main heading is "第11回プラチナ大賞表彰式(平成26年7月25日)". Below the heading, there are three photographs: 1) A man in a suit presenting an award to another man. 2) A group of three men standing together, one holding a framed certificate. 3) A man speaking at a podium. To the right of the photos is a vertical navigation menu with various links.

http://www.soumu.go.jp/photo_gallery/02koho03_03000449.html

日経スマートシティコンソーシアム

The screenshot shows the website for the Nikkei Smart City Consortium. The main heading is "日経スマートシティコンソーシアム". Below the heading, there are navigation tabs and a main article titled "【基調講演】小宮山宏氏「プラチナ大賞を創設、島根県海士町などを表彰」". The article includes a portrait of Hiroshi Onoyama and text describing the award and the consortium's goals. Below the article are several bullet points highlighting award winners and their achievements, each accompanied by a small portrait photo.

<http://bizgate.nikkei.co.jp/smartcity/symposium/symposium5/001308.html>

第1回プラチナ大賞 報告書

2013年12月1日 発行

編著 プラチナ大賞運営委員会事務局
(プラチナ構想ネットワーク事務局)



プラチナ
構想ネットワーク

編集・発行 プラチナ大賞運営委員会事務局(プラチナ構想ネットワーク事務局)
〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 TEL. 03-6705-6216 FAX. 03-5204-9563

